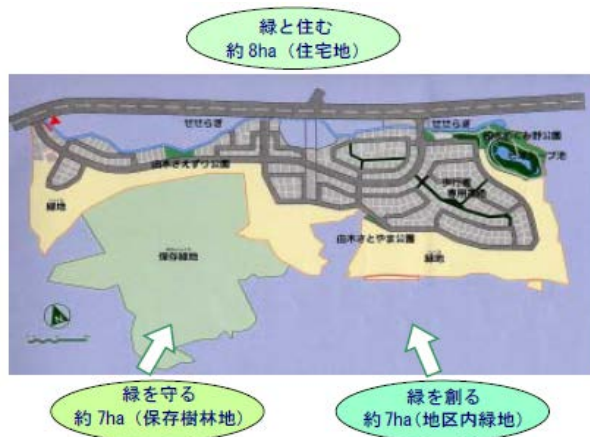


ビオトープと雑木林の保全活動（最終報告）

めぐみ野自然の会

東京都



当会は、由木めぐみ野公園の通称ビオトープ、湧水が流れるせせらぎ、緑地の三か所を活動場所としています。

活動助成申請書に記載した活動内容別に、活動 2 年目となる 2017 年度の最終報告を行います。

活動内容は、A)樹木剪定、B)草刈り、C)雑木林再生、D)広報チラシ作成、E)広報看板掲示、F)せせらぎ補修の 6 つです。

A) 樹木剪定

テーマに挙げていた「樹木剪定」についての計画と、これに対する 2 年目の報告です。

計画

ビオトープやせせらぎ、雑木林の樹木の剪定を行う。
これまで対応できなかった高いところに対しても、脚立を購入して剪定を実施。
また、手作業で効率が悪かったため、ヘッジトリマー（エンジン式剪定機）を購入。

最終実績

◆雑木林の樹木の剪定

前年に購入した園芸用の梯子も利用し、緑地の雑木林やビオトープの樹木の剪定を行いました。

緑地の雑木林は、まだまだ樹木の枝が生い茂り、密集しているの



で、かなりの剪定が必要です。しかも、太い樹木が多いので、枝を落とすのもかなり苦労しました。一気には改善しませんが、こうやって少しずつ作業する

ことによって、少しずつ雑木林は明るくなってきています。



◆鋸を購入

前年度に引き続き、劣化したノコギリや鉋の交換品として、新しい樹木用ノコギリ、竹用ノコギリ、鉋を購入しました。これらの道具は、作業に参加したメンバーに使ってもらい、作業を効率化することができました。

◆ビオトープでの樹木の剪定

前年度に引き続き、ビオトープ池の周囲の樹木の剪定を行いました。2017年度は、特にビオトープの西側の斜面に生えている樹木の剪定を重点的に行いました。ここに生えている樹木（コナラ、クヌギその他）は、10年前には全く無かったのに、今ではかなり大きくなっています。背も伸びて、これ以上大きくなると剪定も難しくなること、そして景観上の問題、特に外からビオトープ池が見えなくなる点について改善すべく、思い切った剪定を行いました。



ここで活躍したのが、前年度に購入した梯子です。これのおかげで、高い木も剪定することが出来ました。



ここに生えているクヌギは、夏になるとカブトムシやクワガタ虫が集まる木で、子供たちにも大

人気です。そのため、カブトムシ探ししやすいよう、クヌギの背が伸びすぎないようにする意図もありました。ここで剪定した枝や葉っぱは、集めたうえで、近く



に集積し、カブトムシなどの虫の育成床として活用しました。



それから、剪定した樹木の後片付けは、課題の一つとなっています。結構な量が発生しますし、かさばります。しかし、ただ積み重ねているだけでは雑然として、見た目も良くありません。そこで、剪定した枝は、できるだけ細かい枝葉と太い枝や幹を分解し、嵩が減るようにしました。細かい手作業で、非常に面倒なのですが、集まってくれた学生さんたちの協力で、可能な範囲で作業を行いました。そして、太い枝や幹は、近所で薪として利用する方に提供し、細かい枝葉は、集積所を作り、そこに積み重ねることによって、できるだけ整然と管理するようにしました。

◆ヘッジトリマーを購入

待望のヘッジトリマーを1台購入し、早速、せせらぎの灌木の剪定にしました。これまで、剪定ば

さみや枝切ばさみで灌木を刈りこんでいましたが、結構手間がかかり、あまりたくさん刈ることができませんでした。しかし、ヘッジトリマーのおかげで、作業者一人でも効率的に剪定することができ、作業時間を大幅に短縮することが出来ました。

B) 草刈り

テーマに挙げていた「草刈り」についての計画と、これに対する2年目の報告です
計画

ビオトープやせせらぎの草刈りを行う。

学生ボランティアを受入れるため、道具を拡充する。

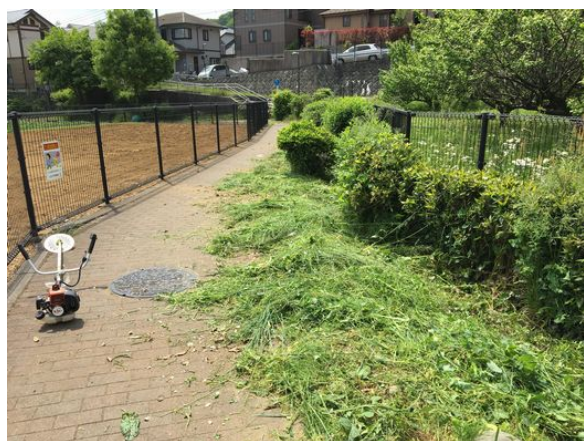
刈取った草の運搬が非常に大変なので、運搬用の台車を導入し、効率化を図る。

最終報告

草刈りは、回数が多いため、各回の記録を紹介します。

◆2017年5月7日

2017年シーズン初めての、せせらぎでの本格的な草刈りです。せせらぎ中流のこの場所は、もっと



も日当たりが良いので、一番草が伸びるのです。もう、雑草だらけで、せせらぎが全く見えません。刈払機で、バリバリと一気に刈り取り、それを熊手で集めます。この時期、雨があまり降ら



なかったなので、この辺りも干上がっていて、雑草も多かったです。水の季節に備えて、水が流れるよう、川道を確保しなければなりません。

最後に、集めた雑草をボランティア袋に詰めて終了。今回はこの場所だけで12袋でした。この時は、まだ5月ということで雑草もそれほど大きくなく、そして柔らかいので、比較的楽な作業でした。でも、これを皮切りに、いよいよ本格的な草刈りとなります。

◆2017年5月20日

この日は、ビオトープ池の周りの雑草が例年通りだいぶ伸びてきましたので、2017年度最初の本格的な草刈りでした。学生ボランティア団体IVUSAから、5名が来てくれまして、炎天下の



中、刈った草を集め、運ぶ作業をやってもらいました。当会のメンバー4名は、刈払機で草刈りです。シーズン初めてなので、草刈りの範囲も広く、手分けして草刈りしました。しかし、この時は5月とは思えないほど暑かったです。休憩を取りながら、熱中症に気を付けながら作業を行いました。

集めた雑草は、公園内にある雑草置き場に運びま



す。集積袋に詰めて運ぶのですが、刈り取ったばかりの雑草は重く、運び出すのは非常に重労働です。我々中高年ばかりだと、非常に辛い作業です。そのため若い力があると、非常に助かります。

草刈りは、ビオトープ池の東側を中心に、まだら模様に行います。ビオトープに住む生き物の多様性を保つために、長い雑草の個所、短い雑草の個所の両方を

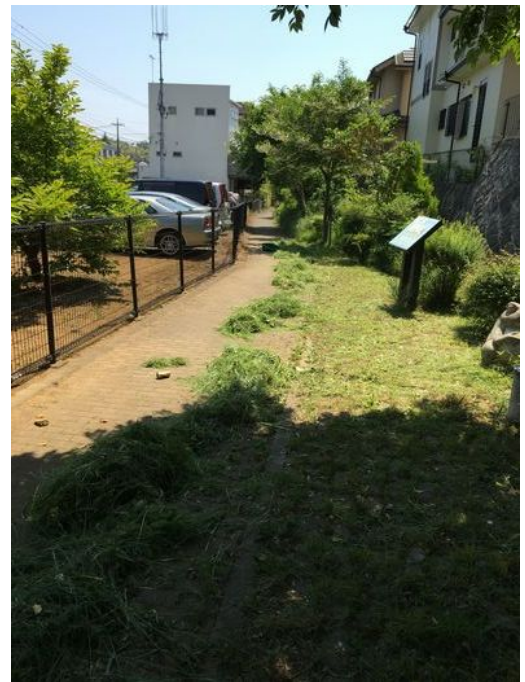
作ります。そして、ビオトープを観察する際に歩く道も確保します。

こういった作業は、10月まで続きます。

◆2017年5月21日

この日は、せせらぎの中流部分の草刈りを行いました。この付近も、すっかり伸びきっておりまして、刈払機でバリバリ刈っていきます。ただ、川道は凸凹しているので、そこは手作業で取ります。この作業が、なかなか大変です。しゃがみこんで、鎌で刈ったり、手で抜いたり。刈り取った雑草は熊手で集め、ボランティア袋に詰めました。

また次の月に草刈りをやる予定があったのですが、定期的に、軽くやっておかないと、荒れ放題になってしまうので、こまめにやるのが大事です。



◆2017年6月17日

この日の活動は、せせらぎの草刈りと灌木の剪定です。翌日が、地区の清掃活動にて、せせらぎを掃除するので、その事前の草刈りを兼ねてです。

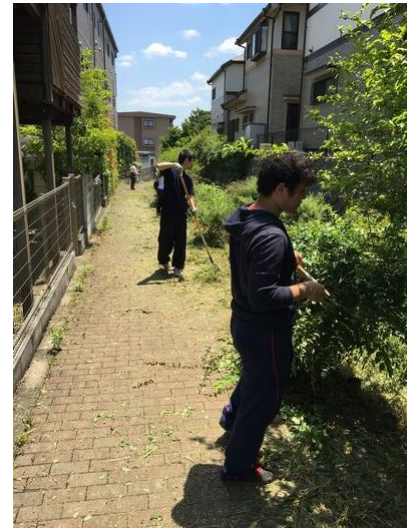
せせらぎの下流から、当会のメンバーが刈払機で草を刈り、学生ボランティア団体 IVUSA の皆さんと中大ボランティアセンターから来た学生さんに灌木の剪定をやってもらいました。

前月も草刈りしましたが、またかなり伸びた状態でした。なお、この年のせせらぎは渇水状態で、上流部でも水はありません。作業はしやすいのですが、残念でした。

学生の皆さんは、刈り込ばさみで灌木の枝をチョキチョキ切りました。



灌木も、春から夏にかけて、かなり伸びます。思い切って切らないと、またすぐに伸びてしまいます。それから、せせらぎの草刈りが大変なのは、凸凹が多いことです。川道があって複雑な地形なので、綺麗に刈るのは、なかなか難しいです。そのため、凝りだすと、作業に非常にかかります。でも時間は限られている。せせらぎは、綺麗にしておきたいので、この辺の葛藤が悩ましいですね。



◆ 2017年7月15日

セミの鳴き声が聞こえてきて、夏のビオトープは、すっかり雑草が茂ってきました。前回刈り取った場所も、膝上まで伸びていました。ということで、この時はビオトープ池東側の草刈りを行いました。今回も、我々が刈払機で草を刈り取り、学生ボランティア団体 IVUSA の皆さんに、刈り取った雑草を運んで



もらいました。熊手やレーキで集め、袋に詰めて運ぶ作業です。夏も本番で、雑草も量が非常に増えてきましたので、運んだ量も相当なものになりました。そして、この日は本格的な夏という感じで猛暑の中。非常にハードな作業となりました。全員、クタクタでしたが、作業のお陰で、歩道からも池が見えるようになって、スッキリしました。

◆ 2017年8月5日

この日の夜に、ビオトープでカブトムシ探しイベントを行うので、その準備としての、会場の草刈りを行いました。夜のイベントなので、足元は綺麗にする必要があるためです。

それから、集まってくれた学生さんには、ビオトープの歩道に飛び出した葛を片づけてもらい、続いて、ビオトープ池のヨシ刈りも行ってもらいました。池の



ヨシがだいぶ長くなってしまい、池が見えなくなっていたので。まず、学生さんたちに、以前刈り取っていたヨシを運んでもらい、その間に、会のメンバーが胴長を着てヨシを刈ります。大きくてかさ張るヨシは、運びづらいのですが、それを少しずつ手作業で運びます。

また、この日は久々に暑くなって、辛い作業でした。ヨシを刈る作業は、水の中に入っただけの手作業なので、それほど一度に刈り取れません。手前の方から、水の中に倒れこんだヨシを優先して刈りました。



◆ 2017年9月2日

朝まで雨が残り、どうなることやらと思ったのですが、8時半ごろには雨もやみ、ひんやり涼しいなかで、活動スタート。



今回も、学生ボランティア団体 IVUSA の皆さんと、中央大学ボランティアセンターから学生さんが集まってくれて、早速、ビオトープの雑草集めから初めてもらいました。彼らに頑張ってもらっている間に、ビオトープ池の東側を当会のメンバーが刈払機で草刈りしました。そして、順次刈った場所の草集めを学生さんにやってもらいました。

集めた雑草は、集積所に山にするのですが、量が凄いで大きな山になります。背丈ほどの山になり、いつもながらその量の多さに驚きますね。



作業していると、こんな可愛い芋虫も。ビオトープの草地には、たくさんの虫が生きています。そして、それを食べる動物もたくさん。そして、それらを狙う鳥や蛇、カエルなども多いです。まさにビオトープですね。島のように草地を残しているのは、まさに草地に住む



生き物の保護のため。一度に刈り取ると、行き場がなくなってしまうからです。

◆ 2017年9月16日

この日は、朝から天気が怪しく、いつ雨が降ってもおかしくない状況でしたが、ひとまず決行しました。まず、ビオトープ池の、ガマ刈りから。写真のように、ビオトープ池に生えているガマが、かなり密集するようになりまして、池が狭くなってきました。そこで、胴長を着て長鎌でこれらを刈り取ることにしま

した。

池の真ん中辺りは、結構深くなりまして、胴長の腰辺りまで水が来ます。そしてさらに奥まで行こうとすると、足元がずぶずぶと沈み、胴長の長さが足りない恐れがあるので、これ以上は断念しました。

今回も、学生ボランティア団体 IVUSA の皆さんと中央大学ボランティアセンターから学生さんが来てくれました。いつもの、雑草運びをやってもらいましたが、



ヨシやガマは長くて重いし、ドロドロに汚れているので大変でした。刈り取った範囲は比較的狭くて、量はそれほどでもありませんでしたが、嵩があるので難儀です。いつもあり

がとうございます。



◆2017年9月30日

この日も、前回に引き続き、ビオトープ池のヨシやガマの刈り取



りでした。この時は、学生ボランティアの皆さん17名が集まってくれまして、大勢で作業が出来ました。ということで、彼らにもガマ刈り作業を手伝ってもらうことにしました。当会のメンバーと学生さん一人が胴長を着て、池の中に入り、長鎌でザクザク切っていきます。そして、残った学生さんに、刈り取ったガマを集め

て運んでもらう作業をお願いしました。ガマ刈りを志願した学生さんは初めての胴長&長鎌での刈り取り体験でしたが、すぐに慣れて、頑張ってくれました。

そして、刈り取ったガマを大勢で陸揚げし、それを雑草置き場に運びます。濡れたガマなので、びしょびしょ&ドロドロで、作業している学生さんたちも、靴もズボンもシャツもドロドロ・・・。





と思っています。

その甲斐ありまして、ビオトープ池はこのように水面が広くなり、かなりスッキリしました。池の底には、過去に蓄積されたヘドロがたくさん堆積しており、池の中を歩くと、ブクブクと泡が立ち、悪臭が立ち込めます。そのため、こうやって地道にガマを刈り取り、新たに有機物が蓄積しないようにすることが大切です。また、ヘドロの中を攪拌することによって酸素が行きわたり、分解を促す効果も期待できます。ということで、この作業は非常に大切です。より回数を増やしていければいいな

◆2017年10月7日

この日は活動予定日でしたが、午前7時の時点で午前中いっぱい雨の予報。やむなく、学生さんたちには中止の連絡をしたのですが、9時ごろには雨がやみまして、様子を見ながら活動を開始しました。

前回からビオトープ池のヨシやガマを刈り取っていますが、まだ残っています。池の北側のヨシです。これが池に覆いかぶさって、池が狭く見えるので、これをカットします。

ということで、胴長を着て刈り取り開始。と、ここで学生さんが一人



登場。幸か不幸か、手違いで連絡が届かず、来てしまった学生さんでした。

その学生さんもヨシ刈りを手伝ってもらいつつ、当会メンバーは、山側から刈払機で草刈りしました。未経験の学生さんに、いきなり胴長を着せ、長鎌でヨシ刈りをお願いしましたが、黙々と頑張ってくれました。

刈り取ったヨシは、大きいので運び出すまでは出来ませんでした。積み上げ山にして、この日の作業は終了。これで、ビオトープのヨシやガマの作業は、ほ

ぼ終了となりました。

◆2017年11月4日

この日は翌日に行われる町内の清掃活動の準備がメインでした。せせらぎの掃除を翌日に行うので、そのために、事前に草刈りや剪定を行うのです。

この日もメンバー総出で刈払機による草刈りを行いました。また、新しく導入したヘッジトリマーで、樹木の剪定も行いました。これまで、樹木の剪定は枝切りばさみで



しか行えませんでした。ヘッジトリマーがあることによって、作業が非常に効率的になりました。せせらぎは、灌木の並木が多いので、こういう場所には効果を発揮します。おかげで、秋のせ



せらぎは、非常にスッキリしました。

なお、もう雑草の季節も終盤です。湧水口のあたりは、雑草に覆われ、水が見えませんでしたので丁寧に草刈りしました。この、湧き水が出てくる個所は、夏にはホタルも観られる貴重な場所で、景観も一番良い場所です。手作業ではありますが、丁寧に草刈りしました。いつでも水の流れが観られるように。



◆ 2017年11月18日

この日の活動は、天気予報が悪いため、中止も考えていましたが、微妙に天気予報が改善したので、決行しました。



秋も深まるビオトープで、鴨さんもたくさん集まっている中、中央大学ボランティアセンターから2名の



学生さんが来てくれました。まず、ビオトープの概要について説明&案内して、当会の活動を知ってもらいました。

この日は、まず西側斜面の果樹の手入れから。果樹の周りがまた葛など雑草が茂ってきたので、これを草刈りしました。あっという間に果樹が葛で埋もれてしまいます。学生さんには、葛で覆われた樹木の手入れをお願いしました。葛をはぎ取る作業です。

そのほかは、西側斜面の土手の草刈りを行いました。会のメンバーが刈払機で刈った後、学生さんに草集めを手伝ってもらいました。こうして、土手もスッキリし、冬の準備が整いました。集めた雑草は、冬の間の生き物の隠れ家となるのです。

C) 雑木林再生

テーマに挙げていた「雑木林再生」についての計画と、これに対する2年目の報告です。

計画

雑木林の若返りを図るため、樹木や竹の伐採や下草刈りを行い、新しい苗を植える。
また、竹林の健全化のため、竹の間引きを進める。

中間報告

雑木林再生も、回数が多いため、各回の記録を紹介します。

◆2017年4月15日

この日は、めぐみ野緑地の竹林の保全活動を行いました。春らしい、暖かい一日となったこの日は、学

生ボランティア IVUSA の皆さんが、新入生を連れて、大勢でやってきました。総勢26名です。そして、中央大学ボランティアセンターからも2名、さらに、めぐみ野のみなさんが4家族ほど参加され、当会のメンバーも5人と、かなりの大所帯。

そして今回の作業は、ちょうど、この時期に出てくるタケノコの伐採などが主な目的。竹林の保全と雑木林の保全のため、タケノコの生え方をコントロールします。竹は繁殖力が強いので、周りの雑木林にどんどん進出しますので、タケノコを伸ばす場所と、タケノコを駆除する場所を決め、タケノコを駆除する場所で



タケノコ探しを行いました。

しかし、今年は3月から4月初旬にかけて寒かったせいか、タケノコが見当たりません。去年のこの時期は、もう、たくさん出ていたので、雲泥の差です。数本しか伐採できませんでした。

そしてタケノコ掘りのあとは、学生さんに竹を運んでもらいました。これまでの活動で、伐採した竹を竹林の中に放置していたのですが、それが広い場所を占めていたので、別の集積所に移動させるのです。たくさんの人手があったので、バケツリレー方式で、竹を順番に運びました！人手が無いと出来ない作業なので助かりました。そして、同時に落ち葉などを溜める集積所の囲いを作成し、作業終了となりました。



◆2017年7月29日

この日は、めぐみ野緑地の雑木林で、落ち葉掃除を行いました。雑木林は、主に冬の間の作業になるのですが、この後に雑木林でカブトムシ探しのイベントを行うため、足元を綺麗にするためです。

ここには、雑木の落ち葉のほか、笹の落ち葉も大量に積もっていますので、それらを区別して山にします。熊手やレーキを使って、足元の落ち葉を集めますが、この時期の作業は、蚊が多いのが難点。全員、蚊にかまれながらの作業となりました。

しかし、この時期の雑木林は、カブトムシやクワガタ虫など、昆虫の天国です。そんな時期に雑木林の散策をしてみると、いろいろな発見があります。もっと、たくさんの人に、夏の雑木林を散策してほしいですね。そのためにも、雑木林の環境を整えないといけないと思っています。

◆2017年12月2日

この日は、冬になっての初めての本格的な、めぐみ野緑地の雑木林での活動でした。まず、この竹林&杉



林で、倒木や枝の片づけ。ここの笹刈りを行うための準備作業です。夏の間に、倒木や枝がたくさん地面に散乱しているのですが、これらを片付けないと、刈払機による笹刈りもできません。そのため、集まってもらった学生ボランティアの皆さんに、片っ端から拾ってもらいました。

めぐみ野緑地には、竹林、杉林、雑木林がありますが、いずれも夏の間に雑草や笹がはびこります。特に雑木林は、竹林や杉林と比べると明るいので、

笹や雑草も勢いがあります。これらを刈払機で一気に刈りたいのですが、結構、地面に色々な障害物があるのです。

学生さんたちが障害物を取り除く作業をやっている間、当会のメンバーが、そのあとから刈払機での作業を行いました。半年以上放置していたので、結構伸びているのです。



◆2017年12月16日

この日も、めぐみ野緑地に移動して、雑木林の落ち葉掃除を行いました。すっかり、落ち葉が落ち切った雑木林は、地面にたくさんの落ち葉が溜まってました。これを熊手で集めます。

集めた落ち葉は、山にします。人の背丈ぐらいの山になりました。これで、カブトムシの幼虫も、エサに困ることは無いでしょう。



また、雑木林の足元もスッキリ綺麗になりました。この雑木林を散策される方もいらっしゃるので、気持ちよく散策してほしいです。

◆2018年1月6日

この日は、2018年の最初の活動です。残念ながら学生さんの参加はありませんでしたが、当会のメンバー4名が集まり、めぐみ野緑地の竹林や雑木林で活動を行いました。

ここは元々雑木林だった斜面に竹が進出してきていま



す。
その
た
め、
毎年



竹を駆除しているのですが、まだまだ斜面に竹がたくさん残ってしまっていて、作業は継続しています。今回も、メンバーそれぞれ、竹の伐採を行いました。ひとまず、竹を切ることを優先し、次から次へと切ります。片づけるのは後です。

斜面なので、作業がしづらく、なかなか大変な作業です。それから、急な斜面の部分には、土留めを作りました。切り出した竹を使った、階段状の土留めです。杭となる竹を斜面に打ち込み、杭の間に、太い竹を渡します。なかなか綺麗には出来ませんが、いちおうそれらしく階段状にはなっていますので、まあこれでよいと思っています。

◆2018年2月17日

この日は、学生ボランティア団体 IVUSA から20名、中央大学ボランティアセンターから1名の学生を迎え、当会からは4名での作業でした。総勢、25名の大所帯。活動場所は、めぐみ野緑地の竹林&雑木林。

緑地の竹林&雑木林では、以前の作業で伐倒し



ておいた竹が散乱したままでしたので、これを回収し、解体する、というのがこの日のメインです。まず散らばっている竹を集めてきて、そしてのこぎりで解体します。竹は、斜面などあちこちにあるので、これらを集める作業も大変。そして、集めた竹は、のこぎりや鉋でバラバラにします。

幹の部分は三分割し、太い部分、中くらいの部分、先端部分です。そして枝もバラします。太い部分は、土留めや囲いに使います。中くらいの部分は杭にします。先端と枝葉は、積み上げて山にします。

慣れない作業ですが、学生さんたちは、みんな一生懸命に作業してくれました。こういった作業は、ほんとに手作業ばかりなので、人手があると助かります。

◆ 2018年3月23日

この日の活動は、めぐみ野緑地の雑木林での樹木の剪定でした。冬の間に剪定作業を行いたかったのですが、積雪があったり、他の作業に時間を取られたりで、なかなか捗りませんでした。そのため、こんな時期になってしまいました。



雑木林の樹木は、長い間、ほとんど剪定されてきませんでしたので、非常に茂っており、しかも大木が多い。そのため作業は慎重に行いました。太い枝を切り落とし、それを解体。太さによって分別し、集積所などに積み上げました。これでひとまず2017年度の雑木林の作業は終了です。

D) 広報チラシ作成

テーマに挙げていた「広報チラシ作成」についての計画と、これに対する2年目の報告です。

計画

年間5回前後、広報チラシを作成し、地域に配布する。

最終報告

日付	会報	タイトル
3/30	会報 Vol.28 発行	「春の活動開始」
5/16	会報 Vol.29 発行	「春模様」
7/22	会報 Vol.30 発行	「夏になりました」
10/24	会報 Vol.31 発行	「夏の報告」
1/21	会報 Vol.32 発行	「秋の報告」
3/15	会報 Vol.33 発行	「冬の報告」

活動2年目は、計6回の会報誌の発行が出来ました。

E) 広報看板掲示

テーマに挙げていた「広報看板掲示」についての計画と、これに対する2年目の報告です。

計画

広報用の看板を設置する。

最終報告

2年目は、新しい看板の設置はありませんでしたが、前年度に建てた看板の補修などを行いました。看板の杭が抜かれたりというトラブルもありましたが、再び設置しなおしました。

F) せせらぎ補修

テーマに挙げていた「せせらぎ補修」についての計画と、これに対する2年目の報告です。

計画

せせらぎの川道の補修を行う。急傾斜部分では、川底の摩耗が激しいため、碎石追加によって流れを弱める。特に、蜚が生息する場所については、泥を取り除き、幼虫が住めるような碎石を投入。

最終報告

前年に引き続き、せせらぎの水路に溜まった泥の砂利の除去を行いました。

湧水の出口には、大雨の時に大量の砂や砂利が流れ込むので、浅くなっています。2017年度は、1月



に土砂を取り除く作業を行いました。作業を行ったのは、上流部。ここが一番、水が流れている期間が長いので、土砂が溜まっている部分や、逆に削れている部分が多いです。そのため、土砂が溜まっている個所から土砂を取り出し、それを削れている部分に移しました。

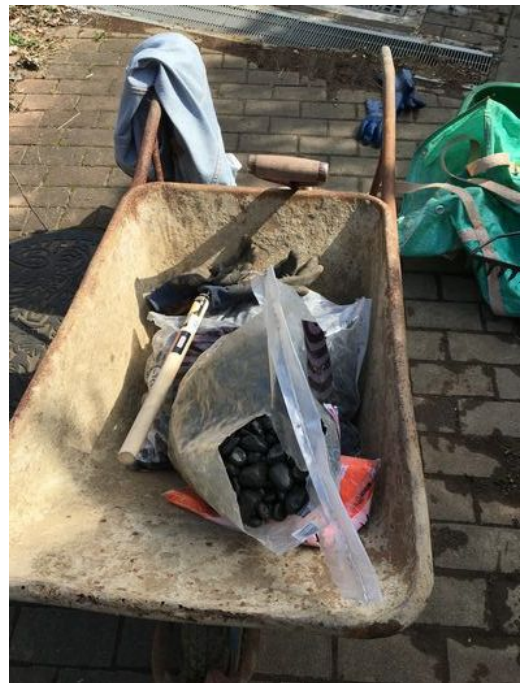
特に、急流部分は、かなりえぐれている部分もありましたので、砂利を購入し、えぐれている部分に追加しました。

砂利は10kg入りの袋を購入するのですが、水路に撒くと、あっという

間に無くなってしまいます。まだまだたくさんの砂利が必要なのですが、ホームセンターから買ってくるのも、なかなか難儀ですね。

それから2月には、渇水期でもあったので、中流部の泥さらいを行いました。ちょうど、道路の下を潜る土管の前後には、泥が溜まりやすいのです。

会のメンバー総出で、鍬やスコップを使って泥をさらいました。さらった泥の中には、石も入っているのですが、この石は水の勢いを落とすために入れている石なので、この石は取り除いて、また水路に戻さなくてはなりません。面倒ですが、必要な作業です。





作業のお陰で、水路にあった深みが、また見えてきました。この部分には泥が溜まりやすいので、定期的に泥さらいするしかないですね。

それから取り出した泥は、その場に置いておくわけにもいかず、離れた場所に積み上げました。一輪車を使って泥を運び出すのですが、距離もあるので、なかなか大変な作業でした。

それから、水路には魚巢ブロックという、窪みがあるのですが、そこも泥が溜まりやすい場所。生き物の住処になる場所でもあるので、ここも保全のために泥カキを行いました。残念ながら、



魚は住んでいないのですが、ヤゴやカワニナ、ザリガニなどの生き物がいます。せせらぎは、渇水になることが多いので、このような窪地を確保することによって水が溜まり、

多少の渇水の際でも水枯れしにくい効果があります。上流からの石がこの窪みに溜まっていることも多いので、石をより分け、そして、その石を再び水路の石が少ない場所に戻す作業も行いました。

こうしてまた、春の雨のシーズンを迎えることができます。